

2023年3月期 第3四半期
決算説明会
2023年2月10日
森永製菓株式会社

将来予測・業績予想について

本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し、計画、目標など将来に関する記述が含まれておりますが、これは当社が現在入手している情報に基づく判断や仮定を基礎としたものであり、将来における当社の実際の業績または展開と異なる場合があります。

森永製菓株式会社

Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved.

皆さん、こんにちは。森永製菓株式会社の最高財務責任者の高木です。2023年3月期第3四半期の決算説明会に、お忙しい中ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

本年度より、上期および通期に加え、第1四半期、第3四半期においても、決算説明資料の開示および説明会を行うことにいたしました。開示の充実に努めてまいりますので、よろしく申し上げます。

まず、第3四半期の決算のポイントについて確認し、その後、具体的な内容についてご説明申し上げます。

本日のポイント

・ 第3四半期単、累計ともに増収減益

- 3Q累計で売上高は前年同期比106.6%、国内・海外ともに好調を維持。
- コスト高騰による売上原価への影響が一段と顕在化する一方、増収および価格改定効果により3Q累計の粗利額は同99.7%と前期同水準。営業利益は同79.6%と減益ながら、前回予想*1を上回る進捗。

・ 価格改定後の動向は概ね目論見通り、打ち返し策は着実に進展

- 当上期に実施した各ブランドについては、市場でのポジションにより明暗はあるものの、数量への影響は想定内。
- コスト高騰に対する価格改定および増収効果によるカバー率は、1Q単(55%)から3Q単(77%)と、期の進行に伴い上昇。

・ 売上高は2期連続で過去最高更新*2の見込み、通期業績予想の損益を上方修正

- 売上高は、重点領域のin事業・米国事業が好調を継続し牽引。菓子食品事業は3Q以降増収転換。
- 損益は、価格改定効果が順調に実現していること等により、前回予想より上方修正（営業利益+5億円）。

・ 財務戦略に基づき、自己株式取得及び消却

- 2022年10月に100億円の自己株式取得が完了、同年11月に540万株*3の消却を実施。
- 本日（2023年2月10日）新たに、自己株式の追加取得及び消却を決議*4。

森永製菓株式会社 *1 2022年11月10日発表予想。以下同 *2 収益認識基準を遡及適用（2020年3月期以前は当社試算による）、以下同 *3 消却前の発行済株式総数に対する割合は0.96%
*4 詳細は2023年2月10日適時開示「自己株式取得に係る事項の決定及び自己株式消却に関するお知らせ」参照 Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 2

本日の決算のポイントの要約です。

今年度第3四半期は、単および累計とも増収減益で推移しております。売上高は、国内・海外とも好調で、累計で前年同期比106.6%の伸びとなり、特に第3四半期単で109.3%と比較的高い成長となりました。利益面では、引き続き原価高騰の影響を大きく受けておりますが、価格改定効果と増収効果により、第3四半期累計の粗利額は、ほぼ前年並みを確保しました。営業利益は、第3四半期累計で前年同期比79.6%と減益ながら、昨年11月10日に公表した通期の営業利益予想を上回りました。

価格改定効果は概ね目論見通りに推移しております。打ち返し策は着実に進展しており、数量への影響は概ね想定内で推移しております。

本日、通期の業績予想を修正しております。売上高は2期連続で過去最高を更新する見込みです。損益は価格改定が順調に実現していること等を鑑みまして、前回の予想より上方に修正しました。

また、更新した財務戦略の基本方針に基づき、株主還元を強化しております。昨年10月までに100億円の自己株式の取得を完了するとともに、11月には540万株の自己株式を消却しました。さらに、本日、追加で自己株式を取得することを取締役会で決議しております。自己株式と配当を合わせた株主還元は、キャッシュフローベースで今年度過去最高の水準となる見込みです。

2023年3月期 第3四半期 実績

重点領域の成長継続に加え、3Qは菓子食品事業が増収転換。原材料等のコスト高騰が生じる中でも粗利額は前期同水準。戦略的な広告投資、売上拡大に伴う物流コスト増などにより営業利益は減。

(単位：億円)	実績	前期比較	
売上高	1,478	+92	106.6%
売上総利益 (売上総利益率)	594 (40.2%)	▲1 (△2.8pt)	99.7%
営業利益 (営業利益率)	137 (9.3%)	▲35 (△3.2pt)	79.6%
経常利益	139	▲39	78.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	88	▲37	70.8%
EBITDA*1	212	▲33	86.6%

森永製菓株式会社 *1 EBITDAは簡易版を使用→営業利益+減価償却費

Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 4

では、具体的に説明してまいります。

まず、第3四半期の損益実績です。

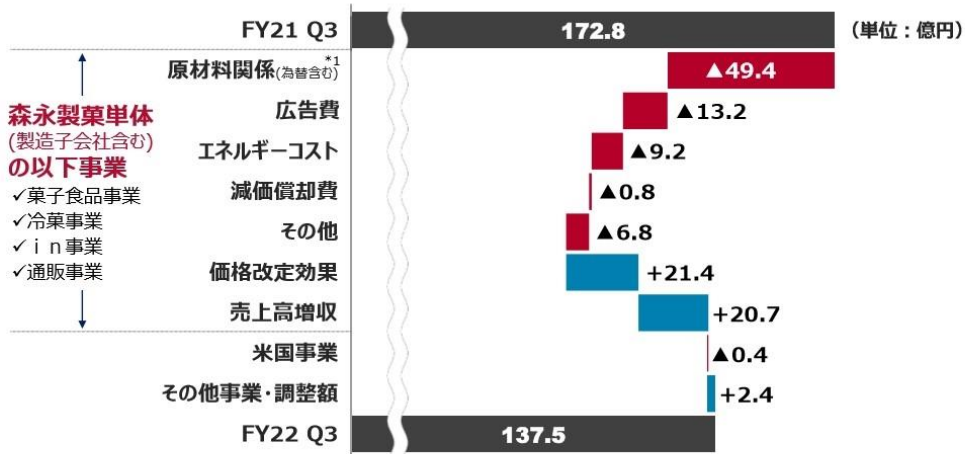
売上高が1,478億円、前年同期と比較しまして92億円の増収、率では106.6%でした。2030経営計画で重点領域と位置付けた事業の成長に加え、菓子食品事業が第3四半期から増収に転じました。

売上総利益は、引き続き原価高騰の影響を大きく受けておりますが、増収効果と価格改定効果により、ほぼ前年並みを確保しました。

次に、営業利益は137億円でした。戦略的広告費を、成長著しい重点領域中心に投入したこと、売上拡大に伴い、物流コストなどが増加したことにより、前年同期と比較して35億円の減益、営業利益率は9.3%でした。

2023年3月期 第3四半期 実績：営業利益増減要因

原材料関係（為替含む）及びエネルギーコスト高騰の影響は3Qでさらに拡大しているが、売上高増収と価格改定による打ち返し策は着実に進展。



森永製菓株式会社 *1 FY21 Q3の実績調達レートは 1米ドル=107円、FY22 Q3は同123円

Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 5

次に、営業利益の増減要因です。減益要因を赤色で、増益要因を青色で記載しております。

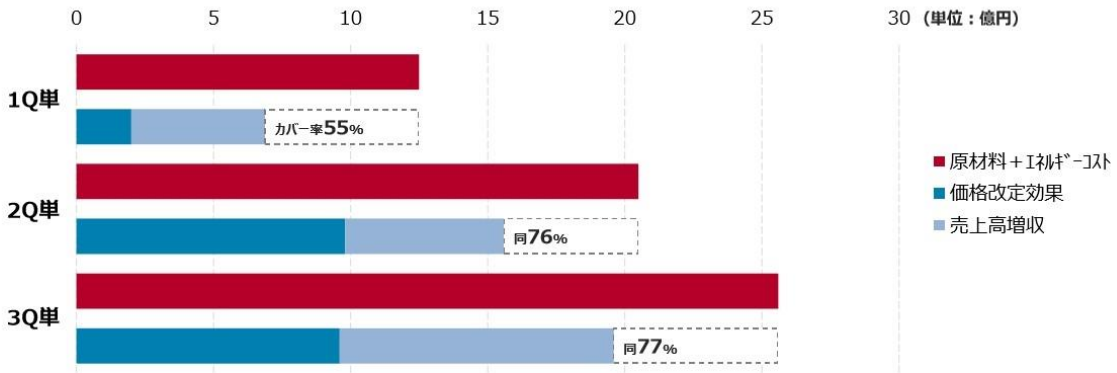
まず、円安影響も含めた原材料関係の高騰影響によるコストが、49.4億円の増加です。昨年11月に公表した通期業績予想では73.4億円との予想をしておりますので、その67%の水準となっております。また、エネルギーコストの上昇影響は9.2億円です。

一方、価格改定効果と売上高増収効果は、それぞれ21.4億円、20.7億円と、打ち返し策は着実に進展しております。

これらを次のページで、四半期別の推移として見てみます。

コスト高騰に対する価格改定と増収効果によるカバー率の推移

期の進行に伴いコスト高騰の影響は拡大しているが、打ち返し効果の伸長によりカバー率は上昇。

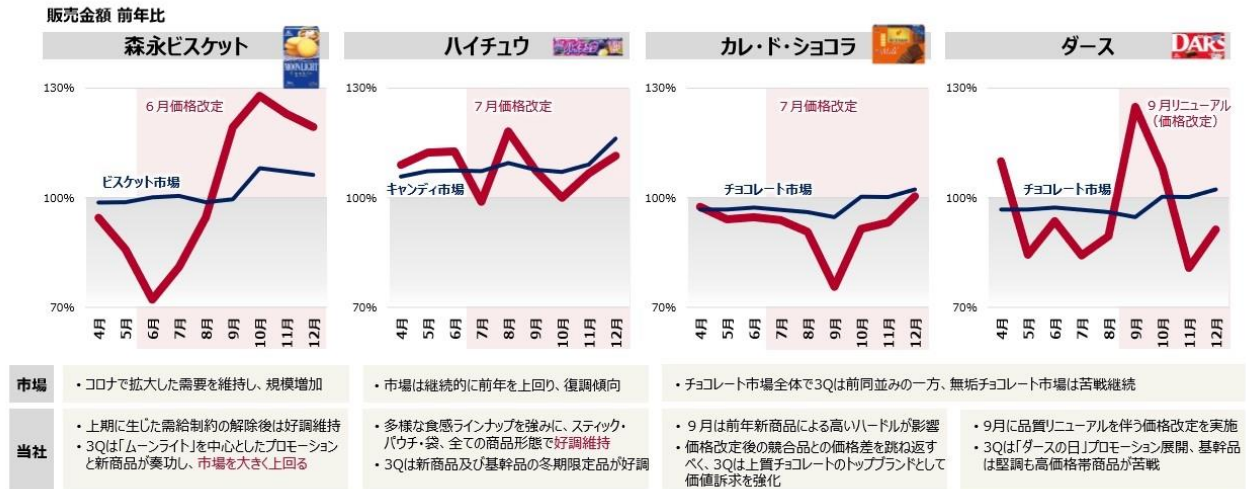


※森永製菓単体（製造子会社含む）の菓子食品事業・冷菓事業・i n事業・通販事業の合計。影響（効果）金額は前年同期比にて算出。

原材料価格とエネルギーコストの高騰を含むコスト高騰影響を赤色、価格改定効果と増収効果を青色で表しています。

ご覧のように、期の進行に伴いコストは増加傾向にありますが、一方、打ち返し策も着実に進展しており、カバー率は上昇しております。

2023年3月期 第3四半期：市場状況①【菓子】



次に、カテゴリー別、ブランド別の販売状況を見ていきます。

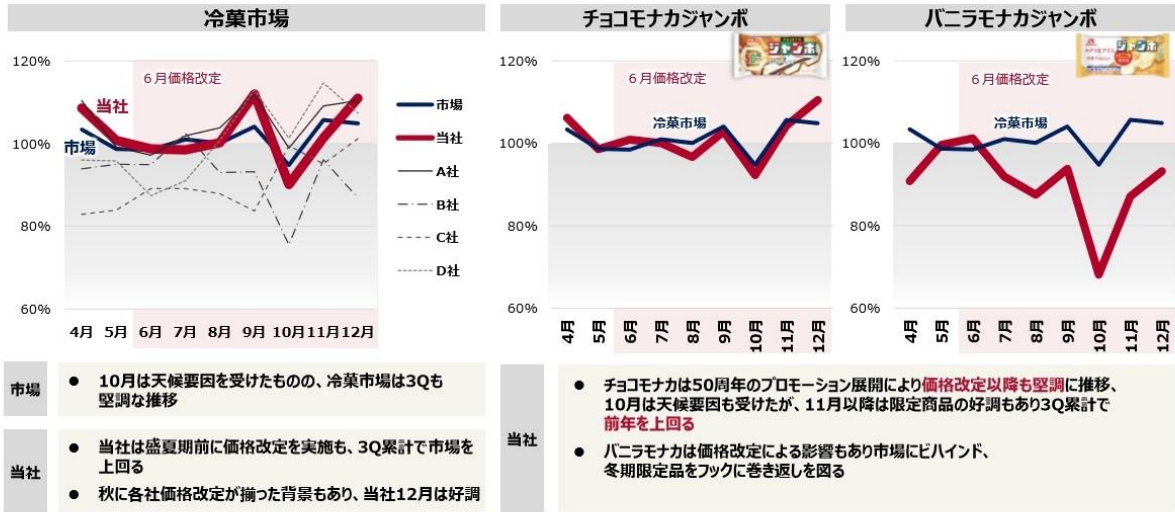
まず価格改定効果については、全体として想定内で推移しております。トレンドは変わらず、カテゴリーやブランドによって凹凸はありますが、トータルとして進捗は順調です。強いブランド力を持つ商品は、特に数量の影響が少ないものと見ております。

国内の菓子については、価格改定月は数量が減少しましたが、市場トレンドが良好で、かつ市場内のポジションが優位なブランドであるハイチュウ、森永ビスケットは、ご覧のように好調です。

市場トレンドの不調が続くチョコレートの分野では、カレ・ド・ショコラは箱タイプとして他社に先行して価格改定を実施した影響もあり苦戦しました。ダースは、高価格帯品の苦戦が若干影響しております。

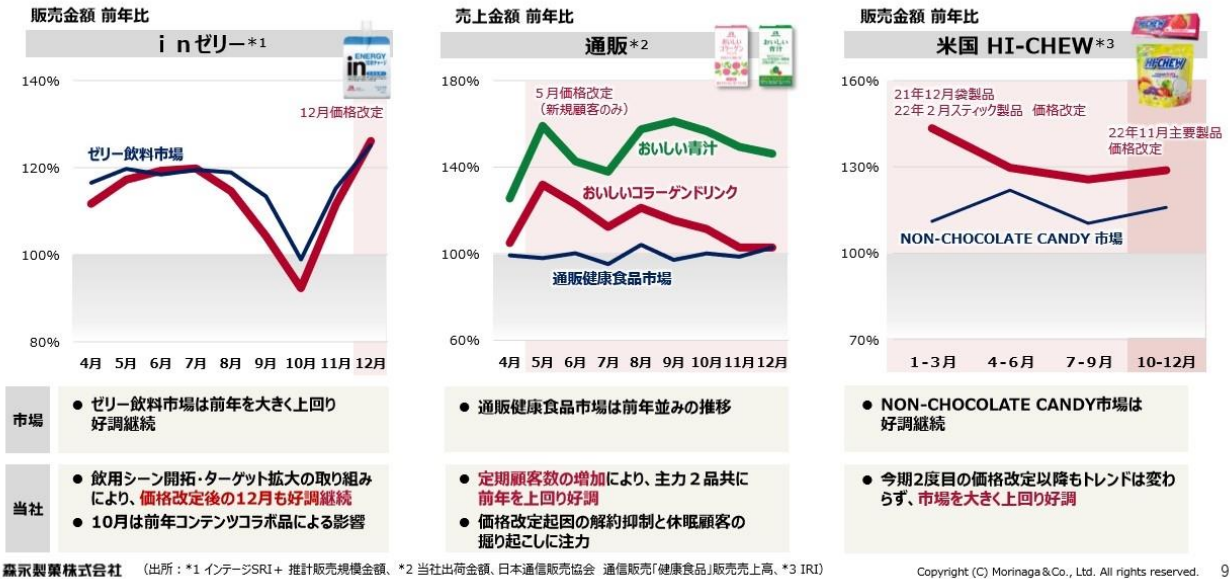
2023年3月期 第3四半期：市場状況②【冷菓】

販売金額 前年比



販売データ上は、ジャンボグループに数量減がみられますが、昨年12月より回復傾向となっております。なお、当社売上金額としては第3四半期累計で前年比100%をキープしております。

2023年3月期 第3四半期：市場状況③【ゼリー飲料・通販・米国】



inゼリーにつきましては、価格改定前後で数量に影響は出ておりません。引き続き、数量ベースで前年を超え、好調を継続しております。

通販事業につきましては、定期顧客数は増加が続いております。2023年2月予定の既存のお客様に対する価格改定に関連しまして、昨年12月は、想定範囲内ではありますが、解約数がやや増加いたしました。

米国 HI-CHEW については、前年を大きく上回る伸長を継続しております。

全体を通じて、今後の価格政策については、仮に原材料価格がピークアウトになったとしても、引き続き収益性にこだわった経営を志向しまして、価値を毀損する安売りは抑制していく考えでございます。

2023年3月期 第3四半期 実績：事業別サマリー

国内は、i n 事業が引き続き増収牽引。菓子食品事業・冷菓事業はコスト高騰影響を大きく受け減益。
海外は、米国事業が売上拡大を牽引し、海外全体で増収増益。

(単位：億円)	売上高			営業利益		
	実績	前期比較		実績	前期比較	
菓子食品事業*1	541	+7	101.3%	9	▲22	30.7%
冷菓事業	328	▲6	98.0%	34	▲19	64.6%
i n 事業*1	251	+27	112.0%	64	+3	104.4%
通販事業	77	+10	115.3%	4	+0	119.9%
事業子会社	110	+12	112.2%	6	+1	133.5%
その他	8	▲1	98.9%	1	+0	112.5%
国内計	1,317	+49	103.9%	121	▲35	77.4%
米国事業*2	108	+33	144.0%	12	▲1	96.5%
中国・台湾・輸出等	52	+10	122.3%	5	+2	141.7%
海外計	161	+43	136.2%	17	+1	106.2%
連結計	1,478	+92	106.6%	137	▲35	79.6%

森永製菓株式会社 *1 i nブランドを冠したキャンディ、チョコレート等の商品は菓子食品事業を含む *2 中国・台湾の米国向け輸出に係る利益を含む

Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 10

これらを踏まえた事業別の業績を見ますと、i n ゼリーが引き続き増収を牽引しております。菓子食品事業および冷菓事業は、コスト高騰の影響を大きく受けて減益となりました。

国内の事業子会社も、人流の回復とともに業績が回復しております。

海外については、米国事業が売上拡大を牽引しまして、海外全体で増収増益となりました。

2023年3月期 業績予想

売上高は2期連続で過去最高更新の見込み。前回予想より損益を上方修正。

(単位：億円)	通期予想 ^{*2}	前期比較		前回予想比較	
売上高	1,935	+123	106.8%	▲8	99.6%
売上総利益 〔売上総利益率〕	760 〔39.3%〕	+2 〔△2.5pt〕	100.3%	+1	100.1%
営業利益 〔営業利益率〕	140 〔7.2%〕	▲36 〔△2.6pt〕	79.2%	+5	103.7%
経常利益	146	▲36	80.0%	+6	103.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	89	▲188	32.0%	+4	104.7%
EBITDA ^{*1}	242	▲35	87.6%	+3	101.4%

森永製菓株式会社 ^{*1} EBITDAは簡易版を使用→営業利益+減価償却費
^{*2} 今回発表予想の前提となる在外子会社換算レートは、1米ドル=131円（前回予想時の前提は132円）

Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 12

2023年3月期通期の業績予想を見直して、本日開示しております。

売上高につきましては、国内・海外とも前年同期比では好調が継続しているもの、前回の発表予想から若干下回る見込みです。

一方、利益面につきましては、価格改定効果が順調に実現していることに加えまして、原材料価格の上昇にやや緩和傾向が見られることから、営業利益は前回発表の予想を5億円程度上回る見込みとなりました。

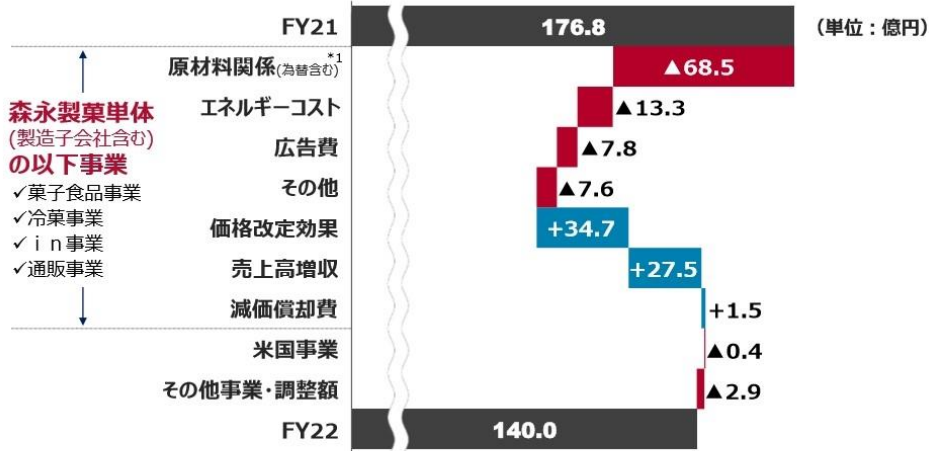
このような状況ですが、経営環境の不透明さは依然として認識しております。特に原材料およびエネルギー価格の高騰に円安が加わり、直近2年間で外部の環境の変化のみで、約100億円の逆風が顕在化している状況です。

このような状況下において収益力の低下に課題を感じており、あらゆる打ち手を講じていきたいと考えております。

この中でも重点領域と位置付ける事業群は、トップライン成長を遂げております。厳しい環境下でのトップライン成長は、逆風が収まった際の収益力向上に弾みを付ける作用があるものと期待しているところでございます。

2023年3月期 業績予想：営業利益増減要因

昨年11月時点の想定に対し、原材料関係(為替含む)の高騰影響は若干の緩和。
価格改定効果の積み増しなどを含め、連結営業利益+5億円の上方修正。



森永製菓株式会社 *1 FY21の実績調達レートは 1米ドル=110円、FY22の予想調達レートは同128円

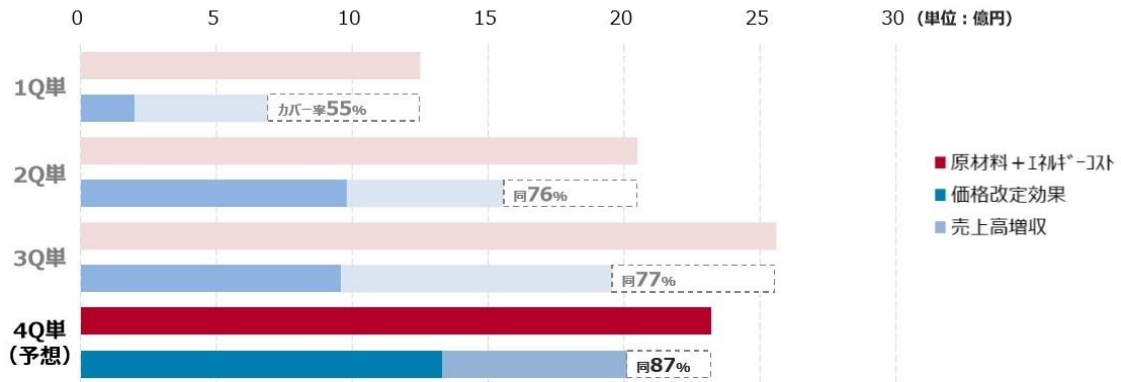
Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 13

本日修正しました通期業績予想の営業利益増減要因です。

大きな構造に変化はありませんが、次のページに四半期別のトレンドを再度整理させていただきます。

コスト高騰に対する価格改定と増収効果によるカバー率（4Q予想）

4Qにおいては、更にカバー率が上昇する見込み。



※森永製菓単体（製造子会社含む）の菓子食品事業・冷菓事業・i n事業・通販事業の合計。影響（効果）金額は前年同期比にて算出。

第4四半期には、コスト高騰影響は前四半期より減額し、打ち返し策によるカバー率はさらに上昇するものと見ております。状況は改善していると認識しております。

直近の価格改定予定

原材料及びエネルギーコスト高騰に対する打ち返し策として、菓子食品事業及び冷菓事業は今期2度目の価格改定を予定。今後も市場動向を注視し、必要に応じて対応を検討。

	事業	価格改定実施日	価格改定率	主な対象品
国内	菓子食品事業	2023年3月1日 出荷分より	3.0%~21.2%	キャンディ、ビスケット、チョコレート、 スナック、食品各種（一部製品除く）
	冷菓事業	2023年3月1日 出荷分より	5.3%~9.1%	各種（一部製品除く）
	通販事業	2023年2月1日 出荷分より	4.1%~6.4%	ドリンク製品各種

価格改定につきましては、菓子食品および冷菓事業で今期2度目の実施を予定しております。ご覧のとおりタイミングと価格改定率になってございます。

今後も市場動向を注視し、必要に応じて対応を検討してまいります。

財務戦略の進捗

アップデートした財務戦略に基づき、財務諸施策をスピーディーに実行。

1. 最適資本構成に向けた負債活用

- 2030ビジョンの実現に向けたグリーンプロジェクト等の一環として、**サステナビリティボンドを発行（発行額 90億円）**
- 中長期の資金ニーズを考慮し、**長期借入金を更新（借入額 100億円）**

2. 資本効率を意識したバランスシートのスリム化

- オフバランス化による資本効率改善として、**退職給付信託への追加拠出を決議（拠出額 50億円）***1

3. 株主還元

- 2022年3月～10月にかけて**自己株式を取得（取得総額 100億円）**
- 発行済株式総数に対する割合**9.96%***2の**自己株式を消却（消却数 540万株）**
- 機動的かつ継続的に実行すると言及に則り、本日（2023年2月10日）新たに、**自己株式の追加取得及び消却**を決議*3

森永製菓株式会社 *1 2023年3月の予定 *2 消却前の発行済株式総数に対する割合
*3 詳細は2023年2月10日連日開示「自己株式取得に係る事項の決定及び自己株式消却に関するお知らせ」参照

Copyright (C) Morinaga & Co., Ltd. All rights reserved. 17

では最後に、財務戦略に基づく諸施策の進捗についてご説明申し上げます。

1点目は、最適資本構成に向けて財務レバレッジを活用していくことを考えまして、当第3四半期にサステナビリティボンドを90億円発行いたしました。また、長期借入金100億円につきましても更新をいたしました。

2点目としまして、資本効率を改善するため、バランスシートのスリム化を進めております。退職給付信託への50億円の追加拠出を取締役会ですでに決議しております。本年3月に実行する予定です。

3点目として、株主還元につきましては、前述のとおり、今年度、自己株式と配当を合わせた株主還元は、キャッシュフローベースで過去最高の水準となる見込みでございます。

2030経営計画に基づき、資本コストを意識した経営を引き続き強力に実行してまいります。

以上、ご清聴ありがとうございました。

【ご注意事項】

将来予測・業績予想について

本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し、計画、目標など将来に関する記述が含まれておりますが、これらは当社が現在入手している情報に基づく判断や仮定を基礎としたものであり、将来における当社の実際の業績または展開と異なる場合があります。